

【p 42～p 45】 一まいの絵 一小磯良平

1 資料活用にあたって

- 学年段階によっては、目の前にある絵画から自分の家族のこと、特に家族の思いを連想させることは難しいので、丁寧にこの箇所を理解をさせる。
- 多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ、十分な配慮を欠かさないようにする。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：まさおくん（子どもがまさおくんになって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：小磯さんの絵（二人の少女）と美術館の人の説明
- 変化するところは：「えっ、そうなの……。自分の子どもをかいたの。」

3 読み物資料の素材について

【参考文献等】

- ・ 『研究紀要 第1号』 神戸市立小磯記念美術館編、1996年

【参考URL】

- ・ 神戸市立小磯記念美術館
<http://www.city.kobe.lg.jp/culture/culture/institution/koisogallery/index.html>

【訪れたい場所】

- ・ 神戸市立小磯記念美術館 〒658 神戸市東灘区向洋町中5-7 TEL 078-857-5880

○ 小磯良平について

- ・ 小磯良平（1903年～1988年）は、神戸市の中央区で生まれ、神戸の洋館が立ち並ぶ街の西洋的な空気の中で育った。生家の環境も芸術にあふれており、小さい頃は、鉛筆と紙があれば、黙々と絵を描いて飽きることがなかったという。
- ・ 1917年、小磯は、生涯の親友となった竹中郁と出会い、その友だちの影響を受け、ヨーロッパに向けて関心の眼が開かれた。
- ・ 1922年、東京芸術大学西洋画科に進み、在学中に帝展特選に選ばれ画壇に鮮烈デビュー。
- ・ 1928年、フランス留学に出発し、一足先に到着していた竹中とともに2年間ヨーロッパを遊学した。絵画技法の習得より、各地の美術館めぐり、有名な画家の絵を鑑賞した。
- ・ 神戸に戻り、欧州絵画の古典的な技法を日本の洋画に根付かせる努力をし、独自の画境を開いた。また、母校の東京芸術大学で教鞭をとり、画学生たちの若い感性を大切にした指導で、日本の洋画界に大きく貢献した。

○ 「二人の少女」について

- ・ 副読本P43の絵は、「二人の少女」（1946年）であり、戦後の小磯良平の代表作である。この作品は、小磯が二人の愛娘をモデルに描いた作品である。二人の少女は、祖母の手編みのお揃いのカーディガン、母の手縫いのスカートを着ている。
- ・ 終戦直後に描かれた作品であって、小磯は神戸大空襲で住居とアトリエを失い、仮住まいを余儀なくされており、その仮住まい時代に娘という家族の愛情をテーマに描いた作品である。
- ・ 本作品は油絵であり、背景はさながら洋間のようなものであるが、仮住まいの部屋に紙を貼って洋間のように見せている。

4 展開の具体例

—まいの絵 小磯良平—

- ・ **主 題 名** ・ 大好きな家族 C (13)
- ・ **資料の概要** ・ 美術館で目にとまった絵画(「二人の少女」)について、学芸員から小磯良平が娘たちへの愛情の視点で描いた作品であることを聞いたまさおは、家族の笑顔を思い出しながら、お母さんと一緒に作ったお弁当の包みをそっと見る。
- ・ **ね ら い** ・ 小磯さんの絵と美術館の人の話から道徳的に変化するまさおくんを通して、家族を愛し家族に役にたつ喜びを知る道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・ 学習する道徳的価値に興味を持つ。	今朝、家の人とどんな話をしましたか。
展 開	・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・ 「二人の少女」の絵を見つけた時の主人公の気持ちを考える。 ・ 小磯さんが大好きな自分の子どもを描いたことを知った時の主人公の気持ちを考える。 ・ 手さげかばんをそっと開けてお弁当の包みを見ているまさおの気持ちを考える。	本でみたことのある絵を見つけたまさおくんは、どんなことを思っているのでしょうか。 ・ あっ、お父さんが好きな絵があるよ。 ・ お父さんにもこの本物の絵を見せてあげたいな。 ・ この二人の女の子は誰なのかな。 「えっ、そうなの…」と言った時、まさおくんは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・ 帰ったら、お父さんにも教えてあげよう。 ・ 小磯さんは、子どものことが大好きだったんだね。 ・ お父さんも小磯さんと同じ気持ちだったんだね。 手さげかばんをそっと開けて黄色いハンカチに包まれたお弁当を見ながら、まさおくんはどんなことを考えているのでしょうか。 ・ お母さん、ぼくと一緒に朝早くから作ったんだよね。 ・ 「まさおが手伝ってくれて助かるわ。」ってお母さんが言ってくれたよね。 ・ ぼくのお父さんやお母さんも、ぼくのことを大切に思ってくれているんだね。 ・ ぼくもお父さんやお母さんのことが大好きだよ。
終 末	・ 感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

P44の1行目に着目させ、主人公が、絵を見てお父さんのことを思い出していることをおさえる。

絵のモデルが小磯さんの子どもであることを知ったことがきっかけとなり、主人公が、目の前の絵とお父さんの気持ちとを重ね合わせていることをおさえる。

お弁当を「そっと見ていること」に着目させ、家族のために役立つ喜びを実感しつつ、家族からの愛を感じている主人公の心情の高まりをおさえる。